

スモモ 鯨山 の品種特性

松下本樹*

Characteristics of a New Japanese Plum Cultivar Geizan (*Prunus salicina* Lindl.)

Motoki MATSUSHITA

要 約

鯨山 は高知市五台山の津野勇氏が育成したスモモの新品種で、1988年に ソルダム の自然交雑により得られた実生から選抜された。2004年3月3日付けで、種苗法に基づき 鯨山 として品種登録された。鯨山 の品種特性は以下のとおりである。

1. 樹姿は開張性であり、樹勢はやや弱く ソルダム とよく似ている。開花期は、主要品種の 大 石早生 ， ソルダム とほぼ同時期で、これら品種との交配親和性が認められる。生理落果は 大 石早生 より少なく、ソルダム 並である。黒斑病抵抗性は、大石早生 ， ソルダム より強い傾向がみられる。
2. 本県における成熟期は、大石早生 と ソルダム の間に当たる6月中旬～下旬である。果実は 円形で 80 g 前後、果皮は紅紫に全面着色し、果肉は紅色である。肉質はやや軟らかく、果汁は多い。完着（10 分着色）時の果実糖度は約 14 %で、大石早生 や ソルダム よりも約 1 %高く、酸味は pH で 4.3 と 大石早生 より少なく、食味は良好である。ホップ矮化ウィロイドに感染すると、果皮が斑入りとなり、食味は低下する。

キーワード：ニホンスモモ、交配親和性、生理落果、病害虫抵抗性、ウィロイド